

プライマリ・ケア診療所における症候および疾患の
頻度順位の同定に関する研究

用賀アーバンクリニック, 医師

田中勝巳

用賀アーバンクリニック, 院長

野間口聡

松村医院, 院長

松村真司

京都大学社会健康医学医療疫学, 教授

福原俊一

総説

プライマリ・ケア診療所における症候および疾患の 頻度順位の同定に関する研究

田中勝巳¹⁾ 野間口聡²⁾ 松村真司³⁾ 福原俊一⁴⁾

プライマリ・ケア医療の質を向上させる上で、頻度の点でどのような疾患・健康問題が重要であるかを明らかにすることを目的とした研究を行った。

日常病・日常的健康問題の頻度に関する日本国内の既存の7論文を抽出し分析した。これらは疾患分類方法が異なるため、新しい疾患カテゴリを作成後に順序づけした。

特に頻度の高い疾患には「急性上気道炎関連」「痛み・関節炎関連」「高血圧関連」「胃腸障害関連」頻度の高い疾患には「湿疹・皮膚炎関連」「高脂血症」「虚血性心疾患」「肝疾患」「糖尿病」、比較的頻度の高い疾患には「脳血管障害」「医学的評価（健診など）」「便秘」「白内障」「不眠」「喘息」があげられた。

「かぜ診療」「痛み・関節炎診療」「高血圧診療」「胃腸炎診療」が頻度の上で特に重要なことが明らかとなった。また、痛みや関節炎などの外来整形外科、湿疹・皮膚炎などの皮膚科診療が、頻度の上で極めて重要であると考えられた。

キーワード：頻度の高い疾患、頻度の高い症候、日常病、日常的健康問題、プライマリ・ケア診療所

プライマリ・ケア Vol. 30 No. 4 344-351, 2007.12

A. 研究目的

プライマリ・ケア医療の質を向上させるためには、頻度の高い疾患や健康問題に習熟し、そのために必要な知識や技能を整理していくことが重要である。これまで、日常病や日常的健康問題に関する研究は本邦でも報告されてきているが¹⁻⁷⁾、施設ごとに特色の違いがあり、各報告を比較分析した論文はみられない。今回それら過去の報告を比較分析し、プライマリ・ケア医の医療の質を改善する際、頻度の点からどのような疾患、健康問題に習熟すればよいかを明らかにすることを目的とした調査・研究を行った。

B. 研究方法

1. 既存論文の抽出・選定

これまでに日本国内で日常病・日常的健康問題に関する研究を報告した既存の論文を抽出した。文献の抽出方法は医学中央雑誌で、原著を「日常病」or「コモン・ディーズ」の検索式で抽出した。29論文が抽出され、その中で頻度の高い疾患・症候の上位20位までの報告がされていた4論文（論文1, 2, 3, 7）を選定した。引用論文からも同様に、頻度の高い疾患・症候の上位20位

までの報告がされていた3論文（論文4, 5, 6）を選定した。

2. 頻度の高い疾患上位20位の抽出

各論文で報告された疾患名の上位20位を抽出した。論文により、新規健康問題と慢性健康問題を区別せずに報告された論文と、区別して報告された論文とがあるため、これらは別々に抽出した。

3. 新しい疾患カテゴリの構築と上位10位の比較

各論文の疾患名は年代により疾患分類法が異なる。同系統の分類方法ではあるが、疾患によりカテゴリが異なるものもあるため、またプライマリ・ケア医が遭遇する疾患の中で同じカテゴリにいられたほうが理解しやすい内容もあるため、近似する疾患を統合し新しい疾患カテゴリを構築した。また、各論文での報告を上記の疾患カテゴリに再度あてはめた上、順位づけを再構築し上位10位を比較した。

4. 頻度の高い愁訴上位20位の抽出

各論文で報告された愁訴（受診理由）の上位20位を抽出した。

5. 頻度の高い疾患の選定

各報告から、特に頻度の高い疾患、頻度の高い疾患、比較的頻度の高い疾患と3つのカテゴリに分け、頻度の

¹⁾用賀アーバンクリニック、医師、²⁾用賀アーバンクリニック、院長、³⁾松村医院、院長、⁴⁾京都大学社会健康医学医療疫学、教授

高い疾患を順序づけした。カテゴリ分けには、各報告の中で上位10位に含まれる頻度の高い疾患をより上位に、また各報告での順位や疾患頻度 (%) を参考にした。特に頻度の高い疾患は、すべての報告で上位10位に入り、疾患頻度 (%) 合計が50ポイント以上のものとした。頻度の高い疾患は、半分以上の報告で上位10位に入り、疾患頻度 (%) 合計が10ポイント以上30ポイント未満のものとした。比較的頻度の高い疾患は、疾患頻度 (%) 合計が3ポイント以上10ポイント未満のものとした。

6. 頻度の高い愁訴の選定

5と同様の方法により、特に頻度の高い愁訴、頻度の高い愁訴、比較的頻度の高い愁訴と3つのカテゴリに分け、頻度の高い愁訴を順序づけした。特に頻度の高い愁訴は、すべての報告で上位10位に入り、愁訴頻度 (%) 合計が10ポイント以上のものとした。頻度の高い愁訴は半分以上の報告で上位10位に入り、愁訴頻度 (%) 合計が5ポイント以上10ポイント未満のものとした。比較的頻度の高い愁訴は、愁訴頻度 (%) 合計が2ポイント以上5ポイント未満のものとした。

C. 研究結果

1. 既存論文の抽出・選定

上記方法により、以下の7論文を選定した。なお報告された論文により疾患分類が異なっているため、疾患分類法も示す。

(論文1)

論文名；「農村における日常病の研究」

著者；宮原伸二 (高知県西土佐村大宮診療所)

出典；プライマリ・ケア 7巻3号
Page217-228 (1984年9月)

対象；僻地診療所 (農村) を受診した特定地域の1年間の全患者1,105人

分類法；ICHPPC (International Classification of Health Problems in Primary Care)⁹⁾

(論文2)

論文名；「地域における日常病に関する研究」

著者；川本龍一 (三崎町国民健康保険二名津診療所)

出典；地域医学 6巻5号 Page6-12 (1992年5月)

対象；僻地診療所を受診した1年間の全患者

(新規健康問題対象者3,194人、慢性健康問題対象者253人)

分類法；ICHPPC-2-Defined (International Classification of Health Problems in Primary Care-2-Defined)⁹⁾

(論文3)

論文名；「プライマリ・ケア医の取り扱う健康問題」

著者；白石由里 (自治医科大学地域医療), 萱場一則, 鶴田貴志夫, 他

出典；日本公衆衛生雑誌 39巻11号 Page848-857
(1992年11月)

対象；都市型診療所 (1, 4, 8, 10月の4ヵ月の全症例のレセプト病名 延べ健康問題数7,207件)

都市近郊型診療所 (2年間に受診したすべての健康問題 延べ健康問題数17,519件)

山間僻地診療所 (2年間に受診したすべての健康問題 延べ健康問題数61,916件)

分類法；ICHPPC-2-Defined⁹⁾

(論文4)

論文名；「外来診療機能—プライマリ・ケア国際分類をもちいての分析—」

著者；重本洋定 (しげもと医院)

出典；プライマリ・ケア 17巻2号 Page148-157 (1994年2月)

対象；都市型診療所を受診した1年間の全患者

分類法；ICHPPC (International Classification of Health Problems in Primary Care)⁹⁾

(論文5)

論文名；「外来診療における主訴とその診断名 ICPC による主訴・来診理由の分類を用いて」

著者；安藤智 (自治医科大学地域医療), 五十嵐正紘

出典；プライマリ・ケア 19巻4号 Page291-297 (1996年12月)

対象；地域中核病院 (内科, 救急外来) で、筆者自身が実際に診察した患者2,649人

分類法；ICPC (International Classification of Primary Care)¹⁰⁾

(論文6)

論文名；「病院併設地域志向型診療所における ICPC を利用した受診理由の研究」

著者；和座一弘 (石橋クリニック), 今井康友, 大西康史, 他

出典；プライマリ・ケア 21巻2号 Page182-190 (1998年6月)

対象；病院併設型診療所の1年間に受診した全患者7,800人

分類法；ICPC¹⁰⁾

(論文7)

論文名；「日常病・日常的健康問題とは ICPC (プライマ

リ・ケア国際分類)を用いた診療統計から(第1報)

著者 ; 山田隆司(揖斐郡北西部地域医療センター), 吉村学, 名郷直樹, 浅井泰博, 古賀義規, 井上陽介, 濱崎圭三, 三瀬順一, LambertsHenk, OkkesInge

出典 ; プライマリ・ケア 23巻1号 Page80-89 (2000年3月)

対象 ; 5つのへき地診療所の1年間に受診した全患者 4,495人

分類法 ; ICPC¹⁾

2. 頻度の高い疾患上位20位の抽出

(論文5, 6は主に頻度の高い愁訴の報告であるためここでは使用せず)

・新規健康問題と慢性健康問題を区別せずに報告された論文の上位20位の抽出

論文1, 論文3, 論文4 (表1)

・新規健康問題と慢性健康問題を区別して報告された論文の上位20位の抽出

論文2, 論文7 (表2, 3)

3. 新しい疾患カテゴリーの構築と上位10位の比較

以下のように新しい疾患カテゴリーを構築した。本研究ではプライマリ・ケア医が遭遇する頻度の高い症候を調査することが目的のため, 細かい疾患単位ではなく大まかな症候となるように構築した。

「急性上気道炎関連」…急性上気道炎, 急性扁桃炎, 急性気管支炎, 上気道炎症候群を統合

「高血圧関連」…合併症のない高血圧症, 合併症のある高血圧症, 本態性高血圧, 高血圧症を統合

「胃腸炎関連」…胃腸障害, 胃の機能異常/胃炎, 胃潰瘍などを統合

「痛み・関節炎関連」…腰痛, 背部痛, 関節の痛み, 変形性関節症などを統合

「湿疹・皮膚炎関連」…湿疹, アレルギー性皮膚炎, 接触性皮膚炎, 虫刺れなどを統合

「けが・外傷」…挫傷・打撲傷・圧挫, 裂傷・外傷を統合

新しい疾患カテゴリーの構築後, 各論文における上位10位を再度抽出した。

なお, 論文2と論文7は新規健康問題と慢性健康問題を区別して報告されていたものを, 比較のため新規と慢性の健康問題を合わせて順位づけを再構築した。(表4)

4. 頻度の高い愁訴上位20位の抽出

(表5)

5. 頻度の高い疾患の選定

論文1, 論文2, 論文3, 論文4, 論文7の5つの論文の中の合計7つの報告から, 上記の方法により, 頻度の高い疾患を頻度順に3つの群にカテゴリ分けをし, 順序づけた。それらを以下に示す。

特に頻度の高い疾患

「急性上気道炎関連」「痛み・関節炎関連」「高血圧関連」「胃腸障害関連」

頻度の高い疾患

「湿疹・皮膚炎関連」「高脂血症」「虚血性心疾患」「肝疾患」「糖尿病」

比較的頻度の高い疾患

「脳血管障害」「医学的評価(健診など)」「便秘」「白内障」「不眠」「喘息」

6. 頻度の高い愁訴の選定

論文5, 論文6, 論文7の3つの論文の報告から, 上記の方法により頻度の高い愁訴を頻度順に3つのグレードにカテゴリ分けをし, 順序づけた。それらを以下に示す。

特に頻度の多い愁訴

「咳」「発熱」「咽喉の症状・愁訴」「くしゃみ・鼻閉・鼻水」「かぜをひいた」「頭痛」

頻度の多い愁訴

「下痢」「その他の限局性の腹痛」「嘔気」「嘔吐」「消化器のその他の症状」

比較的頻度の多い愁訴

「放散痛のない腰背部の症状/愁訴」「皮膚の局所の紅斑/発赤/発疹」「皮膚の痒み」「肩の症状/愁訴」

D. 考察

今回の研究は自施設での集計ではなく, これまでの複数の報告から頻度の高い疾患, 症候を抽出した。僻地診療所, 都市型診療所, 都市近郊型診療所や病院併設型診療所などさまざまな施設での報告を比較分析したところに特徴がある。なお, 出版バイアスに関しては, 今回, 厳密には考慮しなかった。これまでの報告と同様に, 新規健康問題では急性上気道炎関連(いわゆるかぜ診療)が, 慢性健康問題では高血圧が最も頻度が高いことが明らかとなった。また, 痛み・関節炎関連や胃腸炎関連も, 「特に頻度が高い疾患」に分類されていた。次に「頻度の高い疾患」に分類されているのは, 湿疹・皮膚炎関連, 内科的な慢性疾患である, 高脂血症・虚血性心疾患・肝疾患・糖尿病であった。これらの結果より, 一般プライマリ・ケア診療所では, 頻度の点からいえば, 内科の慢

表1 頻度の高い疾患上位20位（新規健康問題と慢性健康問題を区別せず）

順位	論文1	件数 (%)	論文4	件数 (%)
1位	急性上気道感染	445 (11.2)	医学的評価（健康診断など）	2398 (13.0)
2位	急性扁桃炎と扁桃周囲膿瘍	335 (8.4)	急性上気道感染症	1344 (7.3)
3位	本態性高血圧	268 (6.7)	肝障害, 脂肪肝	930 (5.0)
4位	胃と十二指腸のその他の障害	201 (5.1)	脂質代謝障害	754 (4.1)
5位	湿疹とアレルギー性皮膚炎	187 (4.7)	痔核	617 (3.3)
6位	腰痛	183 (4.6)	高血圧症	477 (2.6)
7位	慢性虚血性心疾患	107 (2.7)	鉄欠乏性貧血	471 (2.5)
8位	関節の痛み	100 (2.5)	胃の機能障害	462 (2.5)
9位	肩手症候群	87 (2.2)	アトピー性皮膚炎	352 (1.9)
10位	結膜炎と眼炎	78 (2.0)	食道裂孔ヘルニア	343 (1.9)
11位	白内障	76 (1.9)	変形性関節症	293 (1.6)
12位	蛭痛	75 (1.9)	急性気管支炎	289 (1.6)
13位	挫傷, 打撲傷, 圧挫	69 (1.7)	便秘	268 (1.4)
14位	小球性および鉄欠乏性貧血	56 (1.4)	背部痛, 腰痛	262 (1.4)
15位	その他の眼疾患	56 (1.4)	その他の内分泌疾患	252 (1.4)
16位	膀胱炎と尿路感染	56 (1.4)	その他の心臓疾患	228 (1.2)
17位	皮膚糸状菌症, 白癬症	55 (1.4)	肥満	225 (1.2)
18位	その他の動脈疾患	54 (1.4)	急性扁桃炎	213 (1.2)
19位	口腔, 舌, 唾液腺の疾患	53 (1.3)	挫傷（閉鎖性損傷）	200 (1.1)
20位	その他の脳血管疾患	52 (1.3)	骨粗鬆症	196 (1.1)

順位	論文3 都市型診療所	%	論文3 都市近郊型診療所	%	論文3 山間僻地診療所	%
1位	急性上気道炎	16.2	高血圧	13.6	高血圧	12.3
2位	高血圧	8.8	急性上気道炎	13.4	胃腸障害	6.3
3位	胃腸障害	7.9	急性気管支炎	2.9	虚血性心疾患	6.1
4位	背部痛, 腰部痛	6.0	糖尿病	2.4	急性上気道炎	5.9
5位	肩症候群	5.7	接触性皮膚炎	2.3	脳血管障害	5.1
6位	高脂血症	5.3	裂傷, 外傷	2.0	急性気管支炎	3.1
7位	肝疾患	3.3	過敏性大腸症候群	1.7	放散背部痛	2.9
8位	糖尿病	2.7	脳血管障害	1.6	背部痛, 腰部痛	2.9
9位	変形性関節症	2.6	胃腸障害	1.6	本態性高血圧	2.8
10位	関節炎	2.4	うつ状態	1.5	肝疾患	2.7
11位	虚血性心疾患	2.2	背部痛, 腰部痛	1.4	肩症候群	2.4
12位	皮膚真菌症	2.1	肝疾患	1.4	不眠症	2.2
13位	接触性皮膚炎	2.1	急性扁桃炎	1.3	心不全	1.9
14位	喘息	2.1	喘息	1.2	便秘症	1.8
15位	胃潰瘍	1.9	鼻炎	1.1	糖尿病	1.7
16位	アレルギー性鼻炎	1.5	腹痛	1.1	慢性気管支炎	1.5
17位	過敏性大腸症候群	1.5	急性中耳炎	1.1	骨関節症	1.3
18位	脳血管障害	1.3	皮膚感染症	1.1	腸管感染症	1.3
19位	慢性関節リウマチ	1.3	咽頭気管支炎	1.0	胃潰瘍	1.3
20位	更年期症状	1.1	虚血性心疾患	1.0	めまい	1.2

表2 頻度の高い疾患上位20位 (新規健康問題)

順位	論文2	件数 (%)	論文7	件数 (%)
1位	上気道感染症	1123 (32.8)	急性上気道炎 (かぜ)	2383 (22.5)
2位	胃の機能異常	139 (4.1)	疾患なし	308 (2.9)
3位	接触性皮膚炎	98 (2.9)	接触性皮膚炎/その他の湿疹	282 (2.7)
4位	頸椎に関する症候群	92 (2.7)	胃の機能障害/胃炎	223 (2.1)
5位	背部痛, 放散痛のないもの	90 (2.6)	その他の消化器感染	201 (1.9)
6位	骨関節症, 類縁疾患	79 (2.3)	放散痛のない腰背部の症状	169 (1.6)
7位	膀胱炎, 尿路感染	61 (1.8)	裂創/切創	164 (1.6)
8位	虫刺され, 刺傷	55 (1.6)	急性気管支炎/細気管支炎	140 (1.3)
9位	その他の非リウマチ性疾患	53 (1.5)	めまい	135 (1.3)
10位	結膜炎	48 (1.4)	頸部の症状/愁訴	127 (1.2)
11位	四肢に関する痛み	47 (1.4)	アレルギー性結膜炎	120 (1.1)
12位	裂傷, 開放創, 外傷性切断	46 (1.3)	急性扁桃炎	111 (1.1)
13位	過敏性大腸症候群	43 (1.3)	花粉症, アレルギー性鼻炎, 枯草熱	111 (1.1)
14位	そう痒症と関連状態	41 (1.2)	変形性膝関節症	109 (1.0)
15位	圧挫傷, 打撲傷	41 (1.2)	虫刺傷	108 (1.0)
16位	めまい, めまい感	40 (1.2)	頭痛	99 (0.9)
17位	肩症候群	39 (1.1)	高血圧症以外の血圧の上昇	98 (0.9)
17位	内科的診察	39 (1.1)	肺炎を伴わないインフルエンザ	96 (0.9)
19位	腸管感染症	38 (1.1)	下痢	95 (0.9)
20位	口腔・唾液腺疾患, 膿痂疹 (同点)	各34 (1.0)	便秘	94 (0.9)

表3 頻度の高い疾患上位20位 (慢性健康問題)

順位	論文2	件数 (%)	論文7	件数 (%)
1位	合併症のない一・二次高血圧症	76 (11.8)	合併症のない高血圧症	596 (15.0)
2位	骨関節症, 類縁疾患 (脊椎以外)	64 (10.0)	骨粗鬆症	283 (7.1)
3位	脂質代謝異常, 高脂血症等	39 (6.1)	糖尿病	145 (3.7)
4位	骨粗鬆症	33 (5.1)	白内障	142 (3.6)
5位	白内障	28 (4.4)	変形性膝関節症	141 (3.6)
6位	慢性虚血性心疾患	27 (4.2)	睡眠障害/不眠	132 (3.3)
7位	合併症のある一・二次高血圧症	26 (4.0)	便秘	115 (2.9)
7位	その他の脳血管障害	26 (4.0)	その他の消化性潰瘍	115 (2.9)
9位	胃の機能異常, その他の胃・十二指腸疾患	23 (3.6)	胃の機能障害/胃炎	109 (2.7)
10位	便秘症	19 (3.0)	脂質代謝異常	92 (2.3)
10位	脊椎の骨関節症, すべての部位	19 (3.0)	喘息	88 (2.2)
12位	糖尿病	18 (2.8)	脳卒中	85 (2.1)
13位	背部痛, 放散痛のないもの	18 (2.8)	放散痛のない腰背部の症状	84 (2.1)
14位	喘息	17 (2.6)	食道の疾患	63 (1.6)
15位	不眠症, その他の睡眠障害	15 (2.3)	脊椎の変形性関節症	63 (1.6)
16位	肝硬変, その他の肝疾患	14 (2.2)	腰部椎間板障害	58 (1.5)
17位	胆嚢炎, 胆石症	13 (2.0)	心不全	51 (1.3)
18位	胃潰瘍, その他の消化性潰瘍	9 (1.4)	十二指腸潰瘍	49 (1.2)
19位	背部痛, 放散痛を伴うもの	8 (1.2)	狭心症	46 (1.2)
20位	痛風, 結膜炎, 心房細動, 肩症候群, めまい (同点)	各7 (1.1)	頸椎症候群	46 (1.2)

性疾患である糖尿病や高脂血症よりも痛み・関節炎などの整形外科的診療や湿疹皮膚炎などの皮膚科診療が重要であることが明らかとなった。

愁訴では、「特に頻度の高い愁訴」で、咳、発熱、くしゃみ・鼻閉・鼻汁などが上位を占めた。これらの愁訴はかぜ診療時にみられるものであり、急性上気道炎関連が

表4 疾患カテゴリ分け後の上位10疾患の比較表（5つの論文から）

順位	論文1	%	論文3 都市型診療所	%	論文3 都市近郊型診療所	%
1位	急性上気道炎関連	19.6	痛み・関節炎関連	16.7	急性上気道炎関連	17.6
2位	痛み・関節炎関連	9.3	急性上気道炎関連	16.2	高血圧関連	13.6
3位	高血圧関連	6.7	胃腸障害関連	11.3	胃腸障害関連	4.4
4位	胃腸障害関連	5.1	高血圧関連	8.8	糖尿病	2.4
5位	湿疹・皮膚炎関連	4.7	高脂血症	5.3	湿疹・皮膚炎関連	2.3
6位	虚血性心疾患	2.7	肝疾患	3.3	けが・外傷	2.0
7位	結膜炎と眼炎	2.0	糖尿病	2.7	脳血管障害	1.6
8位	白内障	1.9	虚血性心疾患	2.2	うつ状態	1.5
9位	けが・外傷	1.7	皮膚真菌症	2.1	痛み・関節炎関連	1.4
10位	貧血	1.4	湿疹・皮膚炎関連	2.1	肝疾患	1.4

順位	論文3 僻地診療所	%	論文2	%	論文7	%
1位	高血圧関連	15.1	痛み・関節炎関連	34.0	急性上気道炎関連	24.9
2位	痛み・関節炎関連	9.5	急性上気道炎関連	32.8	痛み・関節炎関連	20.9
3位	急性上気道炎関連	9.0	高血圧関連	15.8	胃腸障害関連	20.6
4位	胃腸障害関連	8.9	胃腸障害関連	11.5	高血圧関連	15.0
5位	虚血性心疾患	6.1	高脂血症	6.1	糖尿病	3.7
6位	脳血管障害	5.1	湿疹・皮膚炎関連	5.7	睡眠障害/不眠	3.3
7位	肝疾患	2.7	白内障	4.4	便秘	2.9
8位	不眠症	2.2	虚血性心疾患	4.2	疾患なし	2.9
9位	心不全	1.9	脳血管障害	4.0	高脂血症	2.3
10位	便秘症	1.8	便秘症, 糖尿病, 喘息 (同点)	各3.0	喘息	2.2

順位	論文4	%
1位	医学的評価・健診	13.0
2位	急性上気道炎関連	10.1
3位	肝疾患	5.0
4位	痛み・関節炎関連	4.1
5位	高脂血症	4.1
6位	痔核	3.3
7位	高血圧関連	2.6
8位	胃腸障害関連	2.5
9位	鉄欠乏性貧血	2.5
10位	湿疹・皮膚炎関連	1.9

最も頻度が高い疾患であったことに合致する。次に「頻度の高い愁訴」として、下痢、その他の限局性の腹痛、嘔気、嘔吐など胃腸障害関連時の症状がすべてをしめている。かぜ診療とならび、胃腸障害の頻度の高いことと合致する。次に「比較的頻度の高い愁訴」では、放散痛のない腰背部の症状/愁訴、皮膚の局所の紅斑/発赤/発疹、皮膚の痒み、肩の症状/愁訴というように、痛み・関節炎関連の愁訴と湿疹・皮膚炎関連の愁訴がみられた。

今回の調査でも明らかにされたが、プライマリ・ケア診療所で遭遇する最も頻度の高い疾患は、いわゆる「かぜ診療」である。しかし、これまでかぜ診療に対する卒

前、卒後教育は十分にされているとはいえない¹¹⁾。日本呼吸器学会から、気道感染症診療のガイドライン¹²⁾が開示されているが、各医師により診療のばらつきがあることは否めない¹¹⁾。かぜ診療の質を高めるために、ガイドラインのさらなる発展・普及や、診療の質の評価項目の作成が期待される。

また、一般プライマリ・ケア診療所では、外来整形外科の標準的な知識や技能が必要とされている現状が示唆された。近年、日本プライマリ・ケア学会などで「膝・腰痛のみかた」などのワークショップが開催されているが、こうした取り組みがますます発展し、一般プライマリ・ケア医師の生涯学習に役立てられることが、医療のニーズからも必要である。同様に、湿疹・皮膚炎関連の皮膚科的診療も頻度的にみて極めて重要であり、基本的な知識や技術の習得の研修の場が必要であると考えられる。

「比較的頻度の高い疾患」群の中で、健診などの医学的評価がみられた。論文4の報告では、この頻度が最も高い。一般健診後の評価は医師ごとに差異があり、事後措置も十分に行われているとはいえない¹³⁾。健診のノウハウや事後措置の方法の標準化なども今後の課題であると考えられる。

表 5 頻度の高い愁訴上位20位

順位	論文 5	件数 (%)	論文 6	件数 (%)	論文 7	件数 (%)
1位	異常結果の精査	104 (7.2)	咳	402 (9.90)	咳	1819(11.7)
2位	発熱	101 (7.0)	咽頭の症状/愁訴	293 (7.22)	発熱	1178 (7.6)
3位	咳	92 (6.3)	発熱	267 (6.58)	くしゃみ/鼻閉/鼻汁	790 (5.1)
4位	腹部全体の疼痛/激痛	88 (6.1)	くしゃみ/鼻閉/鼻水	246 (6.06)	咽喉の症状/愁訴	714 (4.6)
5位	「かぜをひいた」	73 (5.0)	下痢	147 (3.62)	急性上気道炎	669 (4.3)
6位	消化器のその他の症状/愁訴	63 (4.3)	頭痛	143 (3.52)	頭痛	543 (3.5)
7位	嘔気	53 (3.7)	その他の限局性の腹痛	130 (3.20)	膝の症状/愁訴	486 (3.1)
8位	頭痛	52 (3.4)	診察/健康診断 (部分)	100 (2.46)	放散痛のない腰背部の症状/愁訴	422 (2.7)
9位	その他の限局性の腹痛	49 (3.4)	痰の異常	98 (2.41)	皮膚の局所の発赤/紅斑/発疹	421 (2.7)
10位	嘔吐	49 (3.4)	放散痛のない腰背部の症状/愁訴	85 (2.09)	全身脱力/倦怠感/気分不良	336 (2.2)
11位	咽喉の症状/愁訴	47 (3.2)	予防接種/予防投薬	83 (2.04)	胃の痛み	333 (2.1)
12位	事故/損傷	46 (3.2)	皮膚の痒み	80 (1.97)	皮膚の痒み	302 (1.9)
13位	下痢	42 (2.9)	嘔気	74 (1.82)	下痢	302 (1.9)
14位	くしゃみ/鼻閉/鼻汁	34 (2.3)	急性上気道炎	60 (1.48)	めまい	279 (1.8)
15位	その他の神経系の症状/愁訴	33 (2.3)	嘔気	58 (1.43)	頸部の症状/愁訴	273 (1.8)
16位	「喘息の発作がおきた」	31 (2.1)	その他の症状/愁訴	54 (1.33)	下腿/大腿部の症状/愁訴	272 (1.8)
17位	回転性眩暈/眩暈	30 (2.1)	皮膚の局所の紅斑/発赤/発疹	49 (1.33)	肩の症状/愁訴	256 (1.7)
18位	食欲不振	30 (2.1)	肩の症状/愁訴	48 (1.21)	限局性腹痛	209 (1.3)
19位	胸部の症状/愁訴	27 (1.9)	全身脱力/倦怠感/気分不良	47 (1.16)	嘔吐	188 (1.2)
20位	皮膚/皮下組織の局所的腫脹/丘疹/腫瘍	27 (1.9)	切開/排液/洗浄/吸引/体液除去/包交	47 (1.16)	嘔気	160 (1.0)

表 6 米国での疾患頻度上位20位

(National HealthCare Survey 1999-2000, Page30 Series 13, No. 157)

順位	疾患
1位	本態性高血圧
2位	急性上気道炎 (咽頭炎を除く)
3位	乳幼児健診
4位	正常妊娠
5位	糖尿病
6位	一般健診
7位	中耳炎
8位	関節炎
9位	慢性副鼻腔炎
10位	婦人科的健診
11位	リウマチ性疾患
12位	急性咽頭炎
13位	脊椎疾患
14位	慢性、非特異的気管支炎
15位	脂質代謝異常
16位	心疾患 (虚血を除く)
17位	喘息
18位	尿路感染症
19位	アレルギー性鼻炎
20位	虚血性心疾患

今回、プライマリ・ケア診療において頻度的に多いことが予想される、精神的な問題は頻度の高い疾患、症候ともに登場しなかった。各論文の報告でも、うつ状態が

頻度の高い疾患上位20位にはいなかったのは1報告のみである。例えば、胃腸障害の中には疾患の背後にある精神的な問題が病態に関与していることはたびたび経験される。そうした、背後の精神的問題を重視しながら診療を行うのもプライマリ・ケア医の重要な役割である。これらの問題は今回のような統計指標には現れてこないのか、あるいは頻度が低いものなのかについては今後の検証を必要とする。

今回の研究結果と、米国における報告¹⁴⁾(表6)と比較すると、おおよそ近似していることが伺える。異なる点としては、米国では正常妊娠や婦人科健診なども家庭医が担っている現状と、中耳炎や副鼻腔炎などの耳鼻科的疾患も順位が高いことがわかる。乳幼児健診や一般健診など予防医学的な内容も頻度が高い。医療制度の違いにより、専門医へのアクセスのよい日本と、家庭医が管理する診療の幅の広い米国との差異が推察される。

E. 結論

プライマリ・ケア医が遭遇する頻度の高い疾患・症候をこれまで報告された7論文から選定した。プライマ

り・ケア診療所では、「かぜ診療」「痛み・関節炎診療」「高血圧診療」「胃腸炎診療」が頻度的に非常に重要であることが明らかとなった。糖尿病や高脂血症といった内科の慢性疾患の他にも、痛みや関節炎などの外来整形外科、湿疹・皮膚炎などの皮膚科診療が頻度的に重要であり、これらの診療の質を向上させることが、プライマリ・ケア医の医療サービスの質の改善の上で極めて重要であると考えられた。

参考文献

- 1) 宮原伸二：農村における日常病の研究，日本プライマリ・ケア学会誌 7：217-228, 1984
- 2) 川本龍一：地域における日常病に関する研究，地域医学 6：6-12, 1992
- 3) 白石由里，萱場一則，鶴田貴志夫，他：プライマリ・ケア医の取り扱う健康問題，日本公衆衛生雑誌 39：848-857, 1992
- 4) 重本洋定：外来診療機能—プライマリ・ケア国際分類をもちいての分析—，日本プライマリ・ケア学会誌 17：148-157, 1994
- 5) 安藤智，五十嵐正紘：外来診療における主訴とその診断名 ICPC による主訴・来診理由の分類を用いて，日本プライマリ・ケア学会誌 19：291-297, 1996
- 6) 和座一弘，今井康友，大西康史，他：病院併設地域志向型診療所における ICPC を利用した受診理由の研究，日本プライマリ・ケア学会誌 21：182-190, 1998
- 7) 山田隆司，吉村学，名郷直樹，他：日常病・日常的健康問題とは ICPC (プライマリ・ケア国際分類) を用いた診療統計から (第 1 報)，日本プライマリ・ケア学会誌 23：80-89, 2000
- 8) WONCA : International Classification of Health Problems in Primary Care American Hospital Association, Chicago, 1975
- 9) Classification Committee of WONCA : ICHPPC-2-Defined (International Classification of Health Problems in Primary Care), Oxford University Press, Oxford, 1983
- 10) Lamberts H, Wood M (eds) : ICPC. International Classification of Primary Care, Oxford University Press, Oxford, 1987
- 11) 田坂佳千：かぜ症候群と抗菌薬，今月の治療 13：9-15, 2005
- 12) 日本呼吸器学会呼吸器感染症に関するガイドライン作成委員会編集：成人気道感染症診療の基本的考え方，2003
- 13) 後藤由夫：健診判定基準ガイドライン，クリニカルプラクティス 23：1148-1152, 2004
- 14) Catharine W. Burt, and Susan M. Schappert : Ambulatory Care Visits to Physicians Offices, Hospital Outpatient Departments, and Emergency Departments : United States, 1999-2000 National Center for Health Statistics. Vital Health Stat : 30-31, 2002

Ranking the frequency of patient illness at primary care clinics

Katsumi TANAKA¹⁾, Satoshi NOMAGUCHI¹⁾, Shinji MATSUMURA²⁾, Shunichi FUKUHARA³⁾

¹⁾Yoga-Urban Clinic, ²⁾Matsumura Clinic, ³⁾Department of Epidemiology and HealthCare Research, Kyoto University

In order to improve the quality of primary care medicine, we sought to identify which illnesses and health conditions are important from the perspective of frequency.

We searched the Japanese literature and analyzed seven papers regarding the frequency of routine illnesses and routine health problems. These papers differed in their classification of illness, so new illness categories were created and illnesses then categorized.

Illness categories that were identified as Particularly Frequent included "acute upper respiratory inflammation-related," "pain/arthritis-related," "hypertension-related," and "gastrointestinal disorder-related" while those identified as Frequent included "eczema/dermatitis-related," "hyperlipidemia," "ischemic heart disease," "liver disease," and "diabetes mellitus". Those deemed to be Relatively Frequent included "cerebrovascular disease," "medical assessments (such as health check-ups)," "constipation," "cataracts," "insomnia," and "asthma."

Consequently, "cold/flu care," "pain/arthritis care," "hypertension care," and "gastroenteritis care" were significantly frequent. In addition, outpatient orthopaedic surgery such as that for pain and arthritis and dermatological care for illnesses like eczema and dermatitis were very important in terms of frequency.

— (Jpn. J. Prim. Care Vol. 30, No. 4, 2007) —

Key Words : Frequent illnesses, frequent manifestations, routine illness, routine health problem, primary-care clinics